

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1172700716		
法人名	狭山不動産株式会社		
事業所名	グループホーム見晴らしの家		
所在地	埼玉県狭山市入間川1730-1		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年3月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

医療機関の受診について、利用者はそれぞれにかかりつけ医お持ちです。ご家族と共に受診にお出かけになるのですが、検査等で定期受診以外の受診や予定外の受診が入った時などは、ホームのフロア長等が付き添いの代行や送迎などのお手伝いをして速やかに受診出来るよう人員配置を調整しています。ご家族との連絡も個々の利用者の状態に応じた頻回なやりとりで情報共有しつつ協力体制が実現できています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・利用者と家族と職員が一緒になって、笑顔で楽しく暮らすことをめざす暖かい雰囲気の仕事所作りが行われている。また、近くのお茶屋さんとの馴染みのつきあい、中学校の職場体験実習の受け入れなど、地域にも支えられた支援がなされている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「非常に家庭的で入居者への気配り、対応がよくできており、訪問もしやすい」、「食堂の隣が台所なので温かく調理して、すぐの料理が出てもらえるので大変満足しています。家族の話もよく聞いてくれるので安心しています」などのコメントが寄せられ、事業所や職員への信頼度の高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、食事内容を家族にも伝え、家族から感想や評価が得られたことから、目標が達成されている。また、地域住民との合同避難訓練の実施と自治会消防団との連携にも取り組まれ、運営推進会議などで提案・呼びかけが継続されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり・のんびり・一緒に・楽しく」の理念のもと母体が繋がりをを持った地域に溶け込んだ日常生活を目指している。	理念が活かされ、利用者と職員、職員同士が何事も一緒に協力し合うよう取り組まれている。利用者の重度化による閉塞感が感じられないよう、職員の配置などにも気を配り、職員の気づきの充実にも努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お茶・おやつは近くのお茶店に利用者と共に買物に行き、離接する農家から季節の野菜や米を分けてもらうなど日常的に交流している。自治会に加入している。	近くのお茶屋さんとは日頃から交流されたり、中学校の運動会へ出かけ、職業体験実習を受け入れるなど、様々なつきあいに取り組まれている。また、地域の盆踊りや防災訓練に参加するなど、地域に根差した支援が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練の際にご近所に参加の声掛けをして、グループホームの生活を身近に見て頂くような機会にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直近に実施した行事等の報告をして、意見や感想を頂き、ホーム外の情報や指導もいただける場として有難い機会になっている。	車の安全運転、見晴し農園の運用についてなど、運営推進会議では利用者の状況報告以外に様々な内容での話し合いがなされている。また、家族や市担当者からの意見や情報提供がなされ、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には相談や指導をもらっている。担当者は豊富な知識と情報を持ち、頼りになると実感している。	利用者のことや運営上のことなど、担当窓口以外にも様々な部署と相談され、連携が図られている。市がサポートするサービス事業者連絡協議会にも参加し、幅広い情報の収集や共有にも努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解している。玄関の施錠に関しては防犯上必要なことと理解しており、利用者の希望があればいつでも職員付添のもとに開錠している。	職員が拘束とは気付かないことなどには、特に注意を払い、勉強会などを通して知識を身に付けるよう努められている。また、言葉使いでは「命令したり、教育する場所ではない」との考えのもと、尊敬と親しみのあるケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加やホーム内ミーティング・勉強会にを通して学んでいる。また、気づかぬ内に虐待行為を行うことのないようお互いに確認できる環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が数名おられるので、機会あるごとにミーティングで知識の確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	電話や立ち寄って頂き、質問を受ける機会を持っている。契約時には時間を十分にかけ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口の他に「利用者・家族からの意見・要望」として一つのファイルにして管理している。また、交流会の際に時間を設けて直接意見を伺う機会を持っている。	新しく入居される利用者や家族とは、契約時に要望をお聴きして、「できること、できないこと」を確認し合っている。家族の面会の機会が多く、そのとき必ず利用者の近況や家族の気持ちなどを話し合うよう努め、日常のケアに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回ミーティングにおいて、意見の提案を求めている。また、機会あるごとに職員に意見の提案を求めていることを話している。	職員はお互いに「どうしようか」と考え、協力し合う姿勢で、様々な意見や提案がなされている。介護以外に安全点検や備品・食材の補充と発注などの役割を設け、職員それぞれが責任を持った対応がなされ、事業所の運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の担当者が頻回にホームと母体を行き来してホームの現状を代表者に伝えているため、母体はホームの状況をタイムリーに把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体本社は総務課長をととしてホームの細部まで把握しており、具体的な運営については全面的に管理者にまかせてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市事業者協議会やグループホーム協議会に加入して勉強や情報交換の機会にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、何よりご本人が安心していられる場所であることを感じて頂くことを第一と考え、ご本人のお話を聞くことを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は家族も不安の中で落ち着かない状況で過ごしておられるのか様々な質問をなさる。まずはご家族のお話を聞くことに時間をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が希望されるサービスがホームで提供できることではないこともあり、その理解を求めて時間をかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な作業をお願いする最には、作業の必要性をお話し、生活に必要なことを一緒に作業するという印象を持っていただくための声掛けをして、感謝の気持ちを伝えて作業を終わるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は家族付添を基本にしており、生活用品や衣類・寝具は家族用意としているが、情報提供や受診付添の代行などは家族の依頼により行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人の面会や住み慣れた土地故の幼馴染のかたなどが訪問して下さる。また、通院しなれた病院への受診を家族が力を合わせてなさる方もあり、連絡の確認などのお手伝いをしている。	昔の会社の同僚や利用者が通うお茶屋さんが訪ねて来られるなど、馴染みの方々の来訪時には居心地良く過ごされるよう努められている。また、教会へ通う利用者への送迎支援など、関係継続への支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を維持することが難しい状況にはあるが、食堂の座席の配置で日常的に馴染みの景色が変わらないようにしている。仲良しの方に声掛けの手伝いをお願いすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談支援をいたことはない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録。カンファレンス・日常の会話から希望や意向を汲み取る努力をしている。選択範囲を絞ったり、言葉による表現が困難な方には表情から意向を汲み取るようにしている。	利用者が何気なく発せられる言葉を拾い上げ、思いや意向を汲み取るよう努められている。「握り寿司が食べたい」という利用者の思いをキャッチし、持帰り寿司を買って来て喜んでいただくなど、思いへのすばやい対応にも取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用されていたサービス事業所からの情報を頼りに始めるが、入居後はご本人の日常会話や反応な中から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況は日内変動が激しく、毎日午前中のバイタル測定のほか、入浴前にバイタルの再測定を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスで介護計画の評価をしているが、必要時に家族・医師との連絡相談の機会を持ち、職員中心のカンファレンスと併せてサービス担当者会議として個人の記録に残している。	定期的な往診時に家族にも同席いただき、医師の話を直接聞き、家族の要望もすり合わせて、介護計画に活かされるよう努められている。小さなことでも利用者ができることは計画に入れ、支援されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画書Ⅱを掲示して日々のケアに介護計画が反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	数年前に実施したことがあったが、受け入れ側から不都合の申し出があり、中断したままである。必要性は重く感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお茶店が散歩の目標になり、気軽に買物をしたり世間話をしたり出来る場として、馴染みの存在になってくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設以来、訪問診療にきていただいているクリニックがかかりつけ医として現在も協力くださっている。他医療機関を受診する方にも特定健診や予防接種、緊急時受診の窓口になって下さっている。	かかりつけ医への受診は家族が立ち会うことを基本に、送迎を職員が手伝うなどの支援がなされている。食事摂取量、バイタルなどは文書で医療機関に伝えられ、情報の共有に努め、適切な医療サービスが受けられるよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師の配置はないが、家族やかかりつけ医に正しい情報が伝えられるように「受診記録」として毎回受診時には家族に情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に速やかに情報提供、入院中は家族を通して、或いは医療相談員をとおして情報のやり取りをしている。退院時には職員が立ち会い、退院後の介護についての指導を受けることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、契約終了に関する説明をする際、終末期の看とりができる体制ではないことを説明している。	看取りを経験することで、事業所と家族、医療機関がどう連携をするかを考える機会となっている。重度化に向けた利用者・家族の意志や不安にどのように応えるかが再検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の研修計画に消防署における救命救急講習を組み込んでおり、定期的・継続的に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一番困難な夜間帯の避難訓練を重ね、職員は動けるようになった。地域との協力体制の構築については、運営推進会議をとおして実現するために現在も努力をしている。	訓練を重ねることで、2Fの利用者の避難経路の確保など事業所全体での協力体制作りへ具体的な取り組みが図られている。防火管理者を中心に課題の改善に取り組むなど職員の災害対策への意識向上にも努められている。	災害発生時、地域住民からの協力は不可欠であり、消防署の協力を得て、AEDの使用訓練などを行い、近隣の方にも参加していただく機会を設け、合同避難訓練の実施に結びつけるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常性にかまけてぞんざいな言葉使いにならないよう、ミーティング時には点検し、基本的に忠実な表現をするよう確認している。	ぞんざいな言葉や指導的、教育的な言葉使いはタブーとされ、尊厳とプライドへの配慮がなされている。プライバシーの遵守にも気を配り、職員同士が、それぞれの言動についてチェックするなどの取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択範囲を絞ってお話したり、話題を提供したりしてきっかけを作る工夫をしている。また、時間をかけゆっくり対応するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置に限りがある中、利用者はそれぞれの思いとペースで行動されるため、休憩時間をずらしたり、優先順位を考えて業務変更したり、シフト外のリーダー職員が対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事・外出時には洋服を選ぶお手伝いをしている。メイクをすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事や誕生日などの理由付けをして食事や食事作りに変化をつけている。	献立表を家族に送付したことで、家族からの反応が得られ、安心感にもつながれている。利用者は下ごしらえやおやつ作りを手伝うなど、能力に応じて参加され、「食」を楽しんでいただけるよう支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外出・入浴・家事作業の前後に必ず飲み物を提供している。飲み物の種類を多く用意して目先を変える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3度の食事・おやつ後に全員が必ず口腔ケアをしておられ、個人によってそれぞれの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排便状況を理解して失禁前にトイレ誘導しトイレでの用便が可能になったり、使用する紙おむつ類の導入・変更・選択が出来る様になっている。	トイレでの排泄を基本に個々の状況を見ながら支援がなされている。失敗された利用者の落ち込みや傷ついた心にも配慮がなされ、心配しないようにフォローするなど取り組みに努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で排便状況を知り、献立や水分補給に活かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人は入浴を希望なさらないことが多く、声かけの工夫と入浴チェック表を提示して入浴を促すようにしている。また、とにかく入浴好きの方にはあいている僅かな時間にも入っていただいている。	入浴支援は日常的に2人対応で行い、利用者が安全に安心して入浴できるよう努められている。また、浴室や脱衣所は入浴前によく温め、廊下との温度差をなくすことで、健康面や安全面への配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドが希望に沿って使用できるようにベッドメイクと布団干しは時間調整して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が頻回に変化する方もあり、セット薬のセット時・服薬時の2回に確認することになっている。また、「申送りノート」に変化・変更等の共有したい情報を記入することで情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元気な方には床の掃き掃除、足腰の弱い方には洗濯干し、おやつの後にはそのまま女性達でテレビを見ながら洗濯畳と役割を持って生活に必要な家事を分担していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には職員が運転する車で買い物にでかける。移送ボランティアの協力をいただき大型店に出かけたり少し遠出をしている。	「靴を履きかえて外に出る」ことを大切に考え、建物の周辺であっても外気に触れ、季節を感じていただくよう支援がなされている。また、ボランティアの協力で遠方まで買い物や食事に出かけるなど、幅広い外出支援が行われている。	日常的な外出を含めて、その様子を家族に理解いただくことが大切であり、外気浴や近くのお茶屋さんでお茶を楽しまれる姿などを写真に収め、家族に発信される機会を設けられることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方に限られるが、買い物の際は会計をして頂く。会計が困難な方にはお財布の入れたバッグをもっていただくなどの支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもご本人の希望で使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度・明るさには常に注意を払っている。巡視に棄権な環境のチェックとともにチェック項目の一つにしている。	来訪した中学生が書いた利用者の似顔絵や1日のスケジュール表などが掲示され、利用者への良い刺激につながられている。リビングやベランダにソファを置き、利用者が休憩されたり、談笑されるスペースの確保にも努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や食事テーブルの席で空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	体調やADLの変化に応じて居室の様式替えをしている。多人数の面会者がある時には談笑や飲食ができるような配置をして対応している。	使い慣れた家具や鏡台、昔の思い出の写真など、自由に持ち込みいただき、利用者の生活習慣に合わせた居室作りへの支援が行われている。居室内の消毒回数も増やし、衛生・環境面への配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手書きの名前を居室に貼る・目印の飾りを下げるなど表示を工夫したり、動線に家具を配置してつかまることでひとりで移動しやすい環境づくりをしている。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:グループホーム見晴らしの家

作成日:平成 26年 11月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援を行っているにもかかわらず、家族に十分に発信できていない。	散歩や買い物の際も、まめに写真を撮り、家族に発信する。	・お茶店へ買物に行く時はカメラを持参し、スナップ写真をとる。 ・個人の写真ファイルに保管し、家族来訪時に見ていただく。	8ヶ月
2	35	災害時は普段以上に地域住民の協力を必要とすることを踏まえより強い繋がりを構築する。	地域へグループホームの存在を知っていただく工夫をする。	・AED取扱いの講習などをホーム内で開催し、近隣の方もお誘いする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。